

令和 2 年 5 月 29 日現在

機関番号：32512

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2019

課題番号：17K03704

研究課題名(和文) 就職困難者の「とりあえず」就業行動に関する理論的実証的研究

研究課題名(英文) Theoretical and empirical inquiry into the "for the time being orientation" among the workless

研究代表者

中島 剛 (Nakashima, Tsuyoshi)

千葉経済大学・経済学部・准教授

研究者番号：30624837

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は不鮮明な進路・目的意識のままキャリアを選択する若年層に着目し、「とりあえず」志向の観点から曖昧なキャリア選択状況が生じる背景要因について実証した。その結果、はっきりと意思を明示しないことの就業意識に対する両義的な有意性が認められた。とりわけ、自信を喪失し、未成熟なキャリア意識のまま「とりあえず」で非正規職・無業であり続けることが問題を深刻化する点を確認した。したがって、効果的キャリアカウンセリングや早期就労支援策の有効性という観点から、躰きのタイミングの検討や時機を逸さない支援体制の強化が示唆された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本実証結果は、自己キャリアに関する明確な見通しの有無に拘りすぎないことも暗示しており、就活準備が遅れ、上手く就職活動に乗り切れず就業困難に陥る層に対する多角的視点からの就労支援を考える余地を示唆している。また、正規就業を到達目標に掲げるわが国のキャリア教育体系に対して、「やりたいこと」の探求から職業社会への適応力を高める支援に向けた教育改善を提示しており、就職支援のあり方を再考する機会をもたらした点でも意義深い。

研究成果の概要(英文)：This research presents underlying factors that engender ambiguous career choices from the perspective of a "for the time being" orientation. Results showed ambiguous significance for unclear expressions of intentions and employment awareness. Especially, these findings suggest a need to examine the timing by which young people falter and a need to strengthen support systems to prevent them from missing opportunities from perspectives of effective career counseling and effectiveness of early job assistance.

研究分野：キャリア形成論、労働経済学

キーワード：とりあえず志向 キャリア形成 若年者 多義的曖昧性

1. 研究開始当初の背景

- (1) 長期雇用を前提とした内部労働市場を重視した人材育成システムが存在するわが国では、「正規就業（正社員）」に就くことは労働者にとって一定の合理性があるとされてきた面がある。一方、先行き不透明な現代社会において、不確かな進路・目的意識でキャリアを選択する若年者が顕在化してきた。
- (2) わが国のキャリア教育現場でも、正規就業を大前提として、「自分らしさ」「やりたいか やりたくないか」を追求する米国型のキャリア論に基づく指導がなされており、その仕事をやってみたいかどうかという個人内部における模索や葛藤が曖昧なキャリア選択を導くことが指摘されてきた。

2. 研究の目的

- (1) 「とりあえず正社員」就職者の実態把握、及びキャリア形成過程を追跡する。
- (2) 「とりあえず未就業」行動に関し非合理性の観点から意思決定バイアスを検証する。

3. 研究の方法

- (1) 縦断的（パネル）データの変化を時系列で追う手法を用いて、「とりあえず進学」という曖昧な進路選択状況を起点とし、その後の「とりあえず正社員」「とりあえず初職決定」というキャリア意識が成熟する過程を探究する。どのようなキャリア教育の内容が「とりあえず」志向の時系列変化と関連するのかを定量的に検証する。
- (2) 不鮮明な進路・目的意識のまま正規労働以外のキャリアを選択する若年層に着目し、「とりあえず」志向の観点から曖昧なキャリア選択状況が生じる背景要因について検証する。

4. 研究成果

- (1) 大卒正社員を（N=50）を4時点で追跡した縦断調査データを用いて分析した結果、「とりあえず正社員になりたい」が最も大学生に顕著にみられる「とりあえず意識」である。
- (2) 学習状況を媒介とする「とりあえず初職決定」への効果より、資格や検定の学習を通じた学びが当事者意識を高めながら、正社員という具体的目標の認知や企業選びのための意識化が図られる。
- (3) 「とりあえずフリーター」意識を介在させた、個人要因の「働くことへの意識」の因果構造モデルを検討した結果、はっきりと希望や意思を表明しないことの就業意識に対する両義的な有意性が認められ、自信を喪失し、未成熟なキャリア意識のまま「とりあえず」

で非正規職・無業であり続けることが問題を深刻化する。

- (4) 就職活動を行う若年層の 8 割程度が入社前に抱くと報告されてきた「何が何でも正社員として就職したい」という曖昧な進路・目的意識が労働需給の両側面から入社後のキャリア形成に影響を及ぼす。
- (5) 就職困難な状況を乗り越えることで就職活動を通じた人間的成長が見込めるばかりか、そこで培われた知識や経験は会社内の良好な職場環境の維持のためにも効果的であり、人事評価・処遇やキャリア開発支援の充実等の労働需要側の要因によっても、さらに引き伸ばすことが可能な要因である。

< 引用文献 >

中嶋剛、とりあえず志向と初期キャリア形成 地方公務員への入職行動の分析、日本労働研究雑誌、第 632 号、2013、87-101

中嶋剛、とりあえず志向とキャリア形成、2015、日本評論社

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 3件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 中島剛	4. 巻 28
2. 論文標題 私見卓見OPINION:「とりあえず」でも就業促進を	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 日本経済新聞2017年5月10日号朝刊	6. 最初と最後の頁 28
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 中島剛	4. 巻 38
2. 論文標題 就業プロセス・キャリアの違いから何を学ぶか	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 経済教育	6. 最初と最後の頁 148-155
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 T.Nakashima and Choo,H	4. 巻 13
2. 論文標題 Comparison of coping behaviors in Japan and Korea for career choice ambiguity	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Bulletin of Asia Design Culture Society	6. 最初と最後の頁 255-263
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 中島剛	4. 巻 343
2. 論文標題 若年者のキャリア選択における多義的曖昧性研究 「とりあえず志向」の実証的探究	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 同志社大学博士学位論文（乙種、経済学）	6. 最初と最後の頁 1-141
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 中島剛	4. 巻 62
2. 論文標題 若手社員の「とりあえず正社員」意識と職業キャリア意識の関連 労働需給両面からの検討	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 千葉経済論叢	6. 最初と最後の頁 25-50
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計5件(うち招待講演 0件/うち国際学会 0件)

1. 発表者名 中島剛
2. 発表標題 フリーター・ニートの意思決定過程の実証分析
3. 学会等名 日本キャリア教育学会第39回研究発表大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 中島剛
2. 発表標題 多義的曖昧性に関する一考察 とりあえず就業行動からの接近
3. 学会等名 第11回行動経済学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 中島剛
2. 発表標題 多義的曖昧性とキャリア選択
3. 学会等名 日本労務学会第48回全国大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Tsuyoshi Nakashima
2. 発表標題 Ambiguity tolerance in career decision making among the youth-comparative Analysis.
3. 学会等名 12thアジアデザイン文化学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 中島剛
2. 発表標題 キャリア選択過程における曖昧心理要因の分析 日米韓の大卒正社員を通して
3. 学会等名 日本キャリア教育学会第41回研究発表大会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 中島剛編著	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Galaxy Books	5. 総ページ数 84
3. 書名 スポーツ脳でぐんぐん伸ばすSPI & 一般常識	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>キャリアのパスボ (ゼミブログ) https://ameblo.jp/kyarispo/</p>
--

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----